

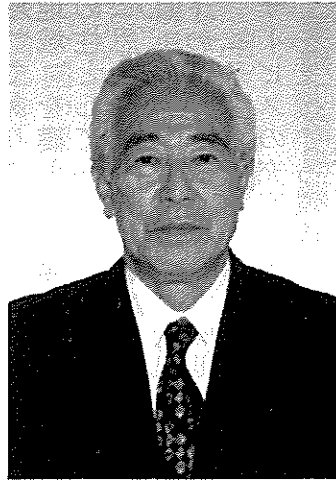
ふくしま県人会だより

第21号
平成22年1月
福島県人会
北海道連合会

今年も県人^{かたぎ}気質で

乗り越えよう

会長 熊坂 成剛



明けましておめでとうございませす。新年をお迎えになられて、皆様には健やかな年の始めであろうこととご推察いたします。

昨年は、リーマンショックで過ぎた年でしたが、不況はまだまだ続くようです。これで不況が去って、今年が景気向上の年であつて欲しいものだと思わずにはおれません。新型インフルエンザの世界的流行やドバイショックもありました。不況は世界の国々に広がり、すべての人が不況の影響に泣いています。

そして、地球温暖化や異常気象は、農林漁業に大きな影響をもたらしていることを知らねばならなくなっています。

そんな中で思い出すのが、県のこと、不況下で頑張っているであろう県人のことです。道内経済も厳しいこんな時こそ困難を乗り越える原動力が県人の特性といます。

人口交流の少なかった過去、一つの土地で生き続けた血液の中で遺伝子も生き続けました。このDNAは今も続いていると思います。県の歴史二百年、三百年の中で培われ、血肉となつている県民魂は、これまでも幾多の困難を乗り越えてきたと思います。

図書館で県民性を書いた本を読む機会がありました。

福島県人の県民性で全県共通なもの、口下手でおとなしい、人情に厚く裏切らないことだと書いてありました。次に、こんなことも書かれていました。

浜通りは、開放的でおおらかな気質。さつぱり型、アピール力に乏

しい、自己PRが下手。中通りは、進取の気性に富み、新しいものに関心が大きい。都会的な匂いが感じられる。

会津は、長州許すまじの意識が強く残り、我慢強い。閉鎖的気性だが、郷土愛の強さ、頑固さは他に負けない。

さて、先行き不透明の経済や政治の今を生きるには、県人の特性である頑固で質実剛健、一つの事をやり通す愚直な田舎者、それで良いのではないのでしょうか。私はその特性を誇りに思い、貫いてきたし、誤りはなかったと確信しています。

県人會も自分たちの原点を忘れてずに歩むことが、会の火を絶やさずに発展し続けることになると思います。

皆さんの知恵と心を県人會に与えてくださるようお願いして、新年の挨拶といたします。

新年のごあいさつ

福島県知事 佐藤 雄平

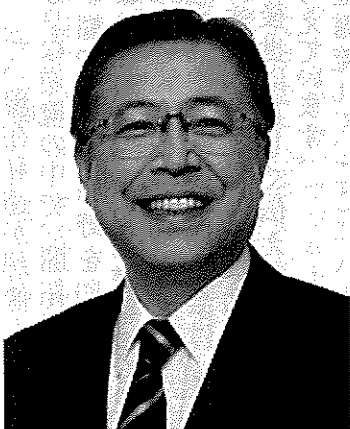
新しい年の初めに当たり、福島県人會北海道連合會の皆さんの御多幸を心からお祈り申し上げます。

私は、これまで總會等で、多くの会員の皆さんとお会いしてまい

りました。ふるさとを遠く離れたながらも、會員相互の交流を深めながら、それぞれの地域において活躍され、福島県の名を大いに高められている皆さんの姿には、心から感謝の意を表しますとともに、あらためて、ふるさとを離れた地においても、本県の宝である心の温かさや優しさ、お互いを支え合う地域社會が、しっかりと息づいていると実感しているとこです。この温かい県民性や地域社會は、人間社會の「基(もと)」であるとともに、本県の大きな魅力であり、次世代へ着実に引き継いでいかなければならないとの思いを強くしたところでもあります。

今年の県政運営では、地域經濟の安定と雇用確保に最優先で取り組むとともに、特に新規高卒者の就職を全力で支援してまいります。

また四月からは、「福島県総合



計画『いきいき ふくしま創造プラン』がスタートいたします。県民一人一人が、笑顔にあふれ、いきいきと活躍することで、地域が輝き、県民はもとより、福島県を訪れるすべての人たちが、癒やされ「ほっとする」、さらには「ずっと住みたい」と思える「ふるさと」「ふくしま」を創造していきたいとの思いを込め、基本目標を「人がほほえみ、地域が輝く」ほっとする、ふくしま」としました。

未来を築く原動力は「人」と「地域」であります。計画では「人と地域」を礎とし、礎を支える三つの柱として「活力」「安全・安心」「思いやり」を掲げました。さらに、重点的プログラムとして、以下の五つを設定いたしました。「子どもたちの育成」は、保育サービスの充実や地域全体で子育てを支援する環境づくり、ワークライフ・バランスの推進などに取り組んでまいります。「産業の総合力発揮」は、本県の強みである医療機器、成長分野である新エネルギーや環境産業の育成、企業誘致による集積を図るとともに、農商工連携による六次産業化などを推進してまいります。「低炭素社会づくり」は、環境にやさしいライフスタイルを推奨するとともに、森林保全活動などにも取り組み、環境先進県を目指してまいります。

ます。「にぎわい創出」は、体験交流型をはじめとする観光の振興、定住「地域居住の推進、文化・スポーツの振興などに取り組みでまいります。「健康や生きがい、安全・安心」では、地域医療の確保、福祉の充実や防犯・防災活動の支援などに努めてまいります。

今年には知事に就任して四年目です。皆さんが誇りに思える、豊かで活力のある福島県を実現するため、全職員一丸となり、県民の皆さんと一緒に、誠心誠意、全力で取り組んでまいり所存でありますので、今後とも、県政運営に対する一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。終わりに、福島県人会北海道連合会の限らない発展と、会員の皆さんの今年一年の御健勝、御活躍をお祈りいたしまして、新年のごあいさつといたします。

会員通信

開基八十周年と

別海町福島県人会

別海町福島県人会 白石 政司

全道の会員の皆様、新年をご家

族おそろいで、お元気で迎えられることと拝察し、心よりお祝い申し上げます。

昨年をふりかえりますと、わが別海町にも様々なことがありました。

その一つは、春から夏にかけての長雨でした。ご案内のように、根室地方の夏は濃霧と雨が多いのですが、昨年は特に例年の三倍もの降雨があり、主産業の一つ、酪農の最も基礎となる牧草の収穫作業が遅々として進まず、大変な打撃を受けました。今後、不良飼料による牛の健康や乳量減への影響等が心配されています。

二つめは、昨年四月一日にJ Aが合併し、新生「J A道東あさひ」が誕生したことです。本町は乳牛飼養頭数全国一ですが、合併によりJ Aあさひは、牛乳の年間生産量が三十七万トンになり、一J Aとしては日本一の規模となりました。今後皆様には、今まで以上に乳製品を愛用していただき、さらなる健康増進に一役かえればと願っています。さて、表題の件ですが、別海町の面積は千三百二十平方キロであり、海岸の方は百数十年の歴史があります。

一方、我々県人会員の住むところは、ほとんどが内陸です。昭和の初期、私達の先人は、新天地開拓を胸に住みなれた山河を後にし、見渡すかぎり広がる別海の原野に

入植しています。

そして、現在私達が想像もできないような逆境の中で、開拓者の方々が不屈の精神で原野を切り開き、今日の豊かな郷土の基礎をつくってくださいました。

私達別海町福島県人会は、こうした先人の方々の偉大な功績をしるび、後世に正しく伝えてまいりたいと考えています。

星霜流れて、ここに八十年。現在は会員の老齢化とともに、会員数は

別海町における酪農の歴史

福島県からの入植は昭和2年以降に始まり、たび重なる冷害など多くの苦勞を重ねながら酪農経営を確立し、別海町の繁栄の基礎をつくった。昭和4年の別海町上春別地区への入植者は92名となっている。

昭和20年から24年までは、「緊急開拓事業」により入植者が増加し、昭和20年代は福島県から西春別農協管内へ44戸が入植した。その後、昭和33年の入植打ち切りまで入植者は漸増した。

昭和53年、開拓30年を記念して「開拓の碑」が建立された。

減少を続けています。

今後、私達は、今まで以上に友愛の精神で、家族会員をはじめ母県出身関係者が町内(中標津町を含む)に大勢いますので、新入会員の参加を図り、会活動のさらなる充実と活性化に向けて努力し、県人会の発展につないで行きたいと考えています。

道東地区合同観楓会

美幌町福島県人会 打地 健一

道東にも晩秋の気配が漂い始めた十月、第二十七回道東地区合同観楓会(美幌町・別海町・浜中町)が、弟子屈町川湯温泉「湯の閣」ホテルで実施されました。

今回の観楓会を担当した美幌県人会としては、その準備に万全を期したことは言うまでもありません。

十月七日(水)、天候にもめぐまれ川湯温泉に出发。車の中で軽い昼食をとりつつ紅葉の美幌峠を通過し、パークゴルフ大会に向かいました。初めてパークゴルフをする人からベテランの人まで和気あいあいの中、それぞれボールに遊ばれた感じがしましたが、県人会相互の交流に発展したと思います。

夕方からいよいよ観楓会の開催です。五月に定山溪で行われた第三十七回連合会総会以来の再会を喜

び、祝宴に入りました。

パークゴルフの入賞は一位から五位とブービー賞、ビンゴ大会もあって景品は盛りだくさんでした。根室のサンマ一箱、サツマイモ一箱、ブドウ一箱、もち米一袋等、いずれも高価なもので、各県人会参加者全員に当たりました。

酒が入った後は、カラオケで各県人会の喉を競い、秋の夜長を楽しく過ごしました。

十月八日(木)朝、別海町、浜中町の県人会の皆様と来年度の再会を約束してお別れし、紅葉の川湯温泉を後に帰路につきました。

母県の動向

文化・スポーツ特集

合唱・吹奏楽全国大会で

福島県勢大活躍

【全日本合唱コンクール】

福島県の合唱は全国でも高い水準にあります。昨年の第六十二回コンクール全国大会では、各部門で力を発揮した年でした。

金沢市で開催された高校の部では、安積黎明高校が三十年連続の金賞で、最高賞の文部科学大臣賞も受賞しました。中学校と高校の部では受賞七十三校(金賞二十一校)

のうち福島県の学校が九校(金賞四校)という突出した成績でした。

また、十一月に札幌市で開催された職場の部では、福島県庁混声合唱団「きびたき」のすばらしい歌声が観客を感動させ、六年連続の金賞と札幌市長賞を受賞しました。

金賞受賞校・団体

- 中学校の部
 - 福島市立福島第一中学校
 - 郡山市立郡山第二中学校
- 高校の部
 - 安積黎明高等学校
 - 橘高等学校
- 職場の部
 - 県庁混声合唱団「きびたき」



職場の部金賞を喜ぶ「きびたき」団員

【全日本吹奏楽コンクール】
十月に東京都で開催された高校の部では、磐城高校と湯本高校が金賞を受賞しました。磐城高校は、県勢初の出場三回連続金賞でした。

駅伝名門「田村高校」が

男女とも大健闘

十二月二十日に京都市で行われた全国高校駅伝大会に、福島県からは男女とも田村高校が出場し、すばらしい成績をおさめました。

男子は県勢五年ぶりの入賞となる七位、女子は十二位といずれも大健闘でした。

チーム員のけがやインフルエンザなどを乗り越えて得られた結果に、選手達も大満足の大会でした。

穂積選手(福島市出身)が

五輪スケート代表に決定

十二月に行われたスピードスケートのワールドカップソルトレークシテイー大会女子三千メートルに出場した穂積雅子選手(ダイイチ)は、自己ベストで七位に入り、二月に開催されるバンクーバー冬季五輪の代表に選ばれました。

本県関係選手がスケートで五輪に出場するのは、平成十四年のソルトレーク五輪に出場した男子フィギ



太平洋を見渡せるいわきマリンタワー

ニアの本田武史選手(郡山市出身)以来二大会ぶりです。

柏原選手(いわき市出身)が箱根駅伝で二年連続MVP

一月二三日に行われた東京箱根間往復大学駅伝では、往路五区の上り区間で区間新をマークし、六人抜きの大逆転で東洋大を連覇に導いた柏原竜二選手(二年、いわき総合高卒)が二年連続の最優秀選手に選ばれました。

チームを率いた酒井俊幸監督(石川町出身)とともに、福島県人の活躍に元気をもらった年明けでした。

フラガールのふるさとを

駆け抜けよう!

二月十四日、いわき市で初めてのフルマラソン大会「いわきサンシャインマラソン」が行われます。

太平洋沿いを走って小名浜「アクアマリンパーク」にゴールするコースで、約六千名が参加する予定です。

大会にはスポーツジャーリストの増田明美さんや、昨年の世界陸上ベルリン大会2位の尾崎好美さん(第一生命)などが招待されます。

新会員紹介

旭川県人会

落合祐喜(おちあいゆうき)郡山市

別海町県人会

軒名庄八(のきなしょうはち)会津若松市

渡辺 信(わたなべまこと)三春町市

苦小牧県人会

横山恵二(よこやまけいじ)いわき市

編集後記

昨年末、倉本聰のラジオドラマ、「マロース」が放送されました。

富良野を舞台に、鳥インフルエンザの発生による殺処分と農薬の不法投棄を絡め、環境破壊が季節をも変えることを訴えていました。

道外の人が北海道に「あこがれるのは、雄大な自然がどこよりも豊富だからだ」と思います。

この環境を末永く守れるよう祈ります。

2月

福島県の伝統行事とお祭り

信夫三山暁参り (10・11日 福島市 羽黒神社)

300年続く奇祭。長さ12m、重さ2tの大わらじを奉納します。

会津絵ろうそくまつり (12・13日 会津若松市 鶴ヶ城)

伝統工芸品「会津絵ろうそく」7千本が、雪景色をやさしく照らします。

大内宿雪まつり (13・14日 下郷町大内)

50基の雪灯籠が茅葺きの町並みを幻想的に照らし出し、「江戸宿場」をよみがえらせます



3月

つつこ引き祭り (第1日曜日 伊達市保原町 巖島神社)

享保の大飢饉を救った領主を称え、つつこ(大俵)を引き合って豊作を占います。

会津彼岸獅子舞 (春の彼岸期間)

笛と太鼓の音色に合わせた3匹の獅子舞が春を告げます。

<代表的な獅子>

東山天寧獅子 (会津若松市)、下柴獅子 (喜多方市)

猪苗代西久保獅子 (猪苗代町)、赤枝獅子 (磐梯町)

